

## 発達障害と性犯罪および性非行についての文献的考察

### The Sex Offense Concerning in the Developmental Disorders

木戸 久美子<sup>1)</sup> 中村 仁志<sup>1)</sup>  
藤田 久美<sup>2)</sup> 林 隆<sup>1)</sup>

Kumiko KIDO, Hitoshi NAKAMURA  
Kumi FUJITA, Takashi HAYASHI

キーワード：発達障害、性犯罪および性非行

#### 要約

本研究は発達障害と性非行および性犯罪との関連を文献的に考察することを目的とした。本邦における医学文献の検索には医学中央雑誌を、外国文献の検索には医学文献データベースMEDLINEを用いた。発達障害と性非行および性犯罪との関連の医学論文は国内で3件、国外で6件とともに少なかった。性非行や性犯罪と関連する発達障害としては、本邦では広汎性発達障害、なかでもAsperger症候群があげられていた。外国では注意欠陥／多動性障害（以下AD/HD）との関連も指摘されていた。どのような発達障害特性が性非行や性犯罪に関連するかは、エビデンスが十分ではないために断定的なことは言えない。発達障害と性非行および性犯罪を短絡的に結びつけることは大変危険であるが、文献的研究からは、発達障害児者の持つ発達特性と彼らを取り巻く否定的な環境要因が、結果的に発達障害児者を反社会的行為に追い込んでしまう可能性が示唆された。

#### はじめに

1997年、神戸で児童殺傷事件が起こった。児童を殺傷した加害少年は連続殺人を題材とするホ

ラービデオや、動物虐待を繰り返すことで性的興奮を得ていたことが報道で明らかになった<sup>1)</sup>。昨年、長崎県佐世保市で少年による幼児誘拐殺人事件が起きた<sup>2)</sup>。事件の概要は、中学生男子により誘拐された幼児が性器を傷つけられた上、駐車場の屋上から突き落とされるという痛ましいものだった。この幼児誘拐殺人事件で加害少年の性的異常性が指摘された。いずれの場合も、加害少年の背景として、知的能力は高いが広汎性発達障害があることが指摘された。

広汎性発達障害とは、自閉性障害カテゴリーの病状の総称で、自閉性障害を分類するために1980年代から使用されている。広汎性発達障害は社会的相互交渉、言語とコミュニケーションの障害があり、想像力が乏しく非常にこだわりが強い。DSM-IVでは、広汎性発達障害のカテゴリーとして、自閉症、Rett障害、小児期崩壊性障害、Asperger症候群、その他の広汎性発達障害がある。そのうちAsperger症候群は言語的な遅れと知的な遅れが無いのが特徴といわれる。Asperger症候群は障害が一見しただけではわからないために本人も障害があることを認識していないことも多く、周囲の障害に対する理解も得られにくいのが、社会的相互交渉、言語とコミュニケーションの障害が存在するために、対人関係でトラブルが絶え

1) 山口県立大学看護学部

Yamaguchi Prefectural University, School of Nursing

2) 山口県立大学社会福祉学部

Yamaguchi Prefectural University, Faculty of Social Welfare

ず、社会から孤立しやすい。

性犯罪とは、強姦（レイプ）、強制わいせつ（レイプまでではないわいせつ行為）等、また、これらの被害により怪我をした場合など、本人の意思に反して、暴行又は脅迫を用いてわいせつな行為をすることをいう。性非行とは未成年が性的な不適応行動を起こすという意味で用いられるのが一般的である。

広汎性発達障害が性犯罪および性非行に直結するものではないが、何らかの要因が重なることで性的異常性を帯びる可能性が考えられた。本研究は、発達障害と性犯罪および性非行との関連を文献的に考察し、発達障害児者の関わる性犯罪および性非行の実態と関連専門職の発達障害と性犯罪および性非行についての認識を明らかにすることを目的とした。

## 2. 方法

国内文献では、対象とする発達障害と性犯罪に関する論文は、本邦の医学文献のデータベースである医学中央雑誌から原著論文だけでなく、症例報告、総説、解説、会議録などすべてについて、1982年以前から2003年までを検索することにした。

「発達障害」をキーワードに検索し、「性犯罪」および「性非行」との関連について研究された文献について絞りこみを行うことにした。検索された論文についてその内容を検討する。

外国文献では、医学文献データベースMEDLINEを用いた。MEDLINEは1966年から2003年の医学論の中から検索を行った。

発達障害に関連する表記として「Developmental Disorders」、「Child Development Disorders, Pervasive」、「Autistic disorder」、「Attention Deficit Disorder with Hyperactivity」をキーワードに検索し、「性犯罪」および「性非行」の表記として「sex offense」との関連について研究された文献について絞り込みを行うことにした。検索された論文についてその内容を検討した。

## 3. 結果

1) 日本における発達障害と性犯罪および性非行に関する論文

「発達障害」をキーワードに、医学中央雑誌で検索した結果、2,884件が抽出された。「発達障害」と「性犯罪」との関連についての論文は5件抽出され、「性非行」との関連の論文は2件抽出された。「発達障害」と「性非行」との関連の論文は「性犯罪」との関連の論文中に含まれていた。「発達障害」と「性犯罪」との関連の論文5件について論文タイトルと論文内容を分析した結果、3件が「発達障害」と「性犯罪」について考察した論文であった。検索された論文はすべて高機能広汎性発達障害およびAsperger症候群と性犯罪および性非行に関する論文であった。2件の論文は発達障害児が小児虐待の対象になりやすいことを指摘した論文であったため分析の対象から外した。

すべての論文は症例をもとにした事例研究であった。論文の内容を分析すると、どのような障害特性が性犯罪と関連しているかが明らかにされており、その中で、Asperger症候群の特徴である社会的相互交渉の障害及び強迫的傾向が性犯罪に寄与していることが報告されていた。また、障害は非行の動因に直結していなかったことも示唆されていた。ただし、定形発達の青年と発達障害者では、性的行動全般において全く異なる行動が見られていた。

2) 外国における発達障害と性犯罪および性非行に関する論文

「Developmental Disorders」、「Child Development Disorders, Pervasive」、「Autistic disorder」、「Attention Deficit Disorder with Hyperactivity」をキーワードにMEDLINEで検索した結果、22,663件が抽出された。「sex offense」との関連についての文献は、15件抽出された。「Developmental Disorders」、「Child Development Disorders, Pervasive」、「Autistic disorder」、「Attention Deficit Disorder with Hyperactivity」と「sex offense」との関連の論

文15件について論文のタイトルと論文内容を分析した結果、6件が「Developmental Disorders」、「Child Development Disorders, Pervasive」、「Autistic disorder」、「Attention Deficit Disorder with Hyperactivity」と「sex offense」について考察した論文であった。

論文の内容を分析すると、どのような障害特性が性犯罪と関連しているかが明らかにされており、その中で、Asperger症候群が1件、AD/HD (Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder: 注意欠陥多動性障害) および自閉症が3件、疾患名は不明なのが2件だった。

9件の論文は、小児虐待と発達障害との関連性などについて記述されたものだったの分析の対象から削除した。

成人期の人格障害の有無をみるチェックリストのスコアの変動にAD/HDと自閉症が関与していることが報告された。アメリカにおける調査で、対象とされた性犯罪者と性嗜好異常者の43.3%がAD/HDであり、さらに25%はAD/HDを含む障害をもっていることが報告されたドイツにおける調査においてAD/HDと性的逸脱行動との関連を指摘しているが、小児期のAD/HDが成人期まで持続する場合に注意が必要であるという。

Asperger症候群は社会的相互作用の欠如とコミュニケーション障害や共感の欠如が特徴とするが、診断基準には記載されていない性暴力の存在や性犯罪を引き起こす可能性について症例報告で言及していた。

#### 4. 考察

本研究は、発達障害と性犯罪および性非行との関連を文献的に考察した。発達障害と性犯罪および性非行との関連性を指摘した医学論文は本邦において3件、外国において6件と少なかった。発達障害は医学的診断であるが、性犯罪および性非行は触法行為でもあり、犯罪学系の論文として掲載されている可能性が考えられる。発達障害と犯罪との関連については医学系では研究が盛んではないことから、医学系の研究者や臨床家は発達障

害と性犯罪および性非行の関連についての認識が十分ではないことが伺えた。

神戸少年殺傷事件や長崎幼児誘拐殺害事件では、専門家から犯罪の性的サドマゾヒズムといった性的異常性が指摘された<sup>1) 2)</sup>が、今回の文献研究では発達障害と性的嗜好の異常性の関連の可能性について言及した論文は散見されるにとどまった。

広汎性発達障害は社会的相互交渉、言語とコミュニケーションの障害があり、想像力が乏しく非常にこだわりが強い。そのうちAsperger症候群は言語的な遅れと知的な遅れが無いのが特徴といわれる。例えば、長崎幼児誘拐殺害事件では、長崎家裁が公表した処分決定要旨は、少年の「男性性器への異常なこだわり」を明記していた。十一ら<sup>3) 4)</sup>の報告では、性犯罪および性非行を犯したAsperger症候群に共通する特徴として、性的関心が非常に限局している点を挙げている。十一のあげた事例のうち一人は関心が乳房のみ、他の事例は下半身のみに限局していたという。いずれも発達障害に特有のこだわり行動が触法行為として現れ出た例であるが、こだわりが触法行為としての性行動に向かった直接の原因は明らかにしていないが、いずれも学齢期に深刻ないじめや周囲になじめない状況があったことが指摘されている。

杉山<sup>5)</sup>は高機能広汎性発達障害児者らにはストーカー行為、強制わいせつ、被害念慮に基づく暴行、放火などの犯罪のリスクがあると述べている。杉山の把握する高機能広汎性発達障害児者のうち性的内容の触法行為に至った者は、発達歴として、集団教育の中で発達障害に起因する特異な行動パターンから激しいいじめを受けつづけていた。杉山はその結果生じた敵対的、迫害の人間関係が固定した中で青年期を迎えたことが彼らを触法行為にいたらせた背景要因として考えられている。発達障害者にとって集団教育の中で受けやすいいじめ体験が、高機能広汎性発達障害児者にとって、本来の障害特性として持つ社会的相互反応の障害に加えて、さらに対人関係を歪める可能

性を示唆している。

一方、十一ら<sup>3) 4)</sup>は広汎性発達障害が性犯罪および性非行に関連していた事例にみられる特徴として、局所のこだわり以外には、①性非行の内容を躊躇することなく自ら進んで供述している点、②性非行の対象に対する選択性の乏しさ(好みのタイプを狙うわけではない)、③性非行を除けば性的関心が乏しいと感じられる点をあげている。これらの特徴はいずれも社会的相互反応の障害に関連しており、発達障害と性犯罪および性非行を研究する研究者が性非行や性犯罪の発生に、発達障害の障害特性そのものが深く関与しているという認識をもっていることが伺えた。

外国文献の中ではAD/HDと性犯罪および性非行との関連を指摘する論文が散見された<sup>6)-8)</sup>。AD/HDに性犯罪および性非行が関連する要因としては、明らかにされていない。具体的障害名は明らかにしていないが、発達障害と性犯罪および性非行との関連を検討した論文では、貧困や家族機能に問題がある場合、虐待やネグレクトの存在が明らかにされている<sup>9) 10)</sup>。

発達障害と性犯罪および性非行との関連を文献的に考察した。性犯罪および性非行と関連する発達障害としては、本邦では広汎性発達障害、なかでもAsperger症候群があげられていた。外国ではAD/HDとの関連も指摘されていた。今回検討対象とした文献は症例報告が中心であり、どのような発達障害や発達特性が性犯罪および性非行に関連するかは、エビデンスが十分ではないために断定的なことは言えない。発達障害と性犯罪および性非行を短絡的に結びつけることは大変危険であるが、今回の文献的研究からは、発達障害児者の持つ発達特性と彼らを取り巻く否定的な環境要因が、結果的に発達障害児者を反社会的行為に追い込んでしまう可能性が示唆された。

## 5. 結論

1) 本邦では、「発達障害」と「性犯罪」および「性非行」との関連についての医学論文は3件あった。いずれもAsperger症候群患者と性

非行および性犯罪に関する論文だった。

- 2) 外国文献では、「発達障害」と「性犯罪」および「性非行」との関連についての医学論文は6件あった。Asperger症候群と性非行および性犯罪に関する論文が1件、AD/HDとの関連論文は3件、障害名が不明だった論文は2件だった。
- 3) 発達障害と性犯罪および性非行を短絡的に結びつけることは大変危険であるが、文献的研究からは、発達障害児者の持つ発達特性と彼らを取り巻く否定的な環境要因が、結果的に発達障害児者を反社会的行為に追い込んでしまう可能性が示唆された。

本研究は、日本学術振興会科学研究費(基盤研究(C)(2))「発達障害の視点からみた少年非行の分析と予防についての研究」によって行われた。

## 文献

- 1) 町澤静夫. 壊れた14歳—神戸小学生殺害犯の病理—WAVE出版, 東京, 1997.
- 2) 村山士郎. 子供たちはいま少年事件のなかから見える子ども像長崎幼児誘拐殺害事件を考える, 婦人通信, 544: 13-15, 2003.
- 3) 十一元三, 崎濱盛三. アスペルガー障害の司法事例 性非行の形式と動因の分析: 精神神経学雑誌, 104(7): 561-584, 2002.
- 4) 十一元三. 性非行にみるアスペルガー-将棋認知機能検査所見と性非行の特異性との関連, 児童青年精神医学とその近接領域: 43(3): 290-300, 2002.
- 5) 杉山登志郎. 高機能広汎性発達障害にみられる行為傷害と犯罪: そだちの科学 1: 42-46, 2003.
- 6) Soderstrom H. Sjodin AK. Carlstedt A. Forsman A. Adult psychopathic personality with childhood-onset hyperactivity and conduct disorder: a central problem constellation in forensic psychiatry. Psychiatry Research. 121

(3):271-280, 2004.

- 7) Kafka MP. Hennen J. A DSM-IV Axis I comorbidity study of males (n=120) with paraphilias and paraphilia-related disorders. *Sexual Abuse: Journal of Research & Treatment*. 14 (4) : 349-366, 2002.
- 8) Blocher D. Henkel K. Retz W. Retz-Junginger P. Thome J. Rosler M. Symptoms from the spectrum of Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder(ADHD) in sexual delinquents. *Fortschritte der Neurologie-Psychiatrie*. 69 (10) : 453-459, 2001.
- 9) Scott CL. Juvenile violence. *Psychiatric Clinics of North America*. 22 (1) : 71-83, 1999.
- 10) O'Shaughnessy RJ. Clinical aspects of forensic assessment of juvenile offenders. *Psychiatric Clinics of North America*. 15(3): 721-735, 1992.

**Key words:** Developmental Disorders, sex offense

### Summary

The purpose of this study was to disclose a relationship between developmental disorders (DD) and sex offences (SO). Research was examined by the analysis of the literature, using electrical database, such as MEDLINE in English and *Igaku Chuo Zasshi* in Japanese. We hit three Japanese articles and six English ones. The contents of Japanese articles showed the criminal profiles in the people with pervasive developmental disorders, especially Asperger syndrome. The English articles discussed about the possible relationship between SO and Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder. There was no evidence that what kind of developmental disorder croeger syndrome. The English articles discussed about the possible relationship between SO and Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder. There was no evidence that what kind of developmental disorder crossly linked the sex related crimes. The study of literatures suggested that the combinations of the properties influenced by DD and the secondly constructed environmental factors made the people with DD to do antisocial behaviors.